平成２９年度第４回宮崎県社会教育委員会議
【議事録】

平成３０年２月２日（金）
午後２時４０分から午後５時まで
宮崎県企業局１階県電ホール

※　事務局より：前回の振り返り・本日の内容等説明
※　委員（３名）より：各地区のプラットフォームのよさ及び協議する課題に関する補足説明
※　ワークショップ（３グループ編成）：各地区の課題解決に向けたプラットフォーム案作成
※　各地区より：プラットフォーム案の報告

協　議
柱　地域住民が主体となり、当事者意識をもって活動するプラットフォームにするにはどのような手立てが必要か。

議　長　地域住民が主体となりきるために、どのような手立てがあるのかを考えていきたい。
社会教育は、学んで、話合いをして、気づいて、実践をして、これらを繰り返すことによって住民主体となると思っている。
綾町の有機農業にしても、その繰り返しを何回もやることによって、住民が主体となって有機農業が発展した。
住民が主体となって、住民がなりきる。それが、地域づくりにつながると思っているがいかがか。

委　員　地域のサイズは大・中・小あるかと思うが、地域住民が主体となるには、基本、地域全員が参画できる参加型、子供から高齢者まで関わりたいと思う方が誰でも関われるのがベースとして必要である。
五ヶ瀬では、高齢化率が高い。持続可能を考えると、次の人材につないでいかないといけない。
西都の方でも、どうやって子供や子育て世代を巻き込むかを考えているし、大塚の方も、高齢者が生き生きとするには、子育て世代や子供とのつながりをという話があった。
地域全員参加の中で、どうやって高齢者と子供の双方に意識を向けて、きっかけづくりをしていくかが、一番の視点になるのではと思った。

事務局　ワークショップの中で、このような意見があった。
高齢者が生き生きと主体的になるというところでは、高齢者に「主体的になりましょう」と言ってもそうはならない。やはり、高齢者自身が参加して楽しいと感じることや、子供たちとの交流も必要である。交流するためにはＰＴＡとのつながりが大切になってくるのではないか。また、高齢者がもっている技を生かして何かをするというのもある。
高齢者が生き生きと主体的に活動するには、楽しみながらやっていくことが前提にあるのではという意見が出された。

委　員　子供に何かを教えたりするのに、高齢者は生きがいをもったりするものである。

このワークショップの報告の中で、残念ながら子ども会育成会が出てこない。子供とか子育て世代の話が出たときに、即、ＰＴＡの方に話がいく。これは、子ども会育成会が理解されていないことが原因だと感じた。

子ども会は本来、子供たちが自分たちで話合いをして、イベントを盛り上げていくというもので、話合いをすることが重要であり、自治の原点であると考える。

前回の会議の時に、子供をお客さんにしてしまうのではなく、鍛えようという話があった。子ども会を発足させて欲しいということではなく、児童クラブも含めて、子供たちに何か課題を与えて話合いをさせるとか、そういうのを住民の一員として子供たちに機会を与えてほしいと思う。

子ども会には、必ず、育成会という大人がついている。子ども会育成会には、指導する地域の大人がいる。この指導者には３種類ある。

１つは、行政とかに、これが大事だと伝えたり、各団体と連携したりするコーディネーター的な人である。

２つは、実際に子供たちが話合いをして、企画運営をすることに対して指導する人。

３つは、お年寄りが昔の遊びを教えられる、竹トンボを作ることができるなど、もっている技能を子供たちに教える技能指導者である。

この辺りを子ども会も前面に出して、地域からこのような指導者を拾い上げていく仕組みをつくればと思ったところである。

委　員　当事者意識をいかに育てるか、どうすれば話合いが活性化するかを考えた時に、一人一人が自分の問題として話すということが大切ではないか。

今日のワークショップでも、他の地域のことであるが、参加すると自分の経験から話すことになる。まず、口を開くこと、ワークショップの場が手立てとして有効だと思った。

委　員　住民が主体となって、当事者意識をもって活動するためのプラットフォームにするということであるが、実際は３つの地区ともそれぞれ取り組んでいる。組織もできていると思う。

このプラットフォームを有機的に機能させる手段として、６つあるのではないかと思う。

１つは、情報収集とか発信機能である。地域にはどういう課題があるのか、地域にはどういう資源があるのか、そういうことを収集、発信する機能。住民に対して啓発するものである。

２つは、それぞれの団体がもっているネットワークを結ぶことである。各団体、ＰＴＡ、高齢者クラブ、まちづくり推進委員会、学校、企業、社会福祉協議会もやっている。そういう諸々のネットワークをどう結んでいくか。

３つは、個別の団体を支援する機能である。ＰＴＡ、子ども会等がやっていることを支援する機能をもたせたらどうか。

４つは、人材の育成機能。地域の人材をいかにプラットフォームにからませるか。そういう仕組みが必要だと思う。

５つは、学習や体験、活動する場を住民に対して提供する機能。

６つは、それぞれがやっていることをコーディネートする機能をいかにからませるか。実際、コーディネーターが必要になる。プラットフォームを有機的に機能させるためには、コーディネートをどうするのかということが大事になるのではと考えている。

委　員　プラットフォームを有機的に動かすためには、それぞれの部門で正しい知識をもっておかないと、正しい行動ができないと思う。
知識を得て、いかに有機的に活動させるか。知識を１つ１つのプラットフォームに情報として共有し、そして、プラットフォームをどう動かせばいいのかを考える。そういうことが大事ではないか。

議　長　プラットフォームでも、いろんな機能があることが望ましいと考える。このプラットフォームで人をどう動かすか。
そこで「人」であるが、行政主導では限界がある。行政と住民との対話が必要である。行政と住民のタイアップ、両輪でなければ、町が進む方向を共有できない。
人をどう育てるかが、大きな要素になる。
その辺から他にないか。

委　員　人を育てる人材育成ということになると、これは２０年かかると思っている。２０年かかるからこそ、今やらないといけない。今、始めなければ、２０年たっても人は育たないと思う。
だから、どんな活動をするにしても、今、動くことが大事である。２０年後のリーダーを見据えて動くということだと思う。
今でも人材が必要だが、どうするか。もしかしたら、行政でもいいかもしれない。西都の例であれば、給料を発生させ、行政で雇っている。
五ヶ瀬は、今は私がいる。放課後子ども教室を始めて１３年になる。
５年生が２０年立つと３０歳になる。帰ってきて、公民館活動等を一緒にやる。このように自分たちでつくる以外に方法はないだろうと思う。

議　長　２０年かかるということは、幼少期から始めるということか。

委　員　小学５年生だと、だいたい１０歳。２０年後になると３０歳。３０歳になると、そろそろ結婚して、子育てをする。そのタイミングで鞍岡に暮らすとなると、２０年かかるというところである。

議　長　人を育てるというところは、なかなか難しい。長期スパンで考えることが大事である。
子供を育てる環境が最も大事である。自然も大事であるが、大人社会が、夢を見て活動していく。その中で子供が育つ。地域全体が同じ方向を向いて、そして夢を求めて活動し、その中で子供が育つ。そういう環境をどう育てるかが、プラットフォームの在り方だと考える。そういうことも含めて、来年度、５回目からは具体的にプラットフォームの在り方の話を進めていくことになろうかと思う。